

本業を通じて社会に貢献するだけでなく、 より直接的な社会貢献活動も行っています。

CSRへの基本的考え

SBIグループは、社会正義に照らして正しいことを真正面から事業化し、実践している企業集団です。その根底にあるものは、儲かるかどうかではなく「私たちの社会を公正で、快適で、環境適合的で、安全なものにしたい」という信念です。

この信念のもと、SBIグループは「強くて尊敬される企業」を目指し、本業を通じた社会貢献に加え、公益財団法人SBI子ども希望財団を通じた児童福祉向上の面での直接的な社会貢献も行っています。

CSR活動の歩み

2002年1月 CSR活動に関する基本方針を決定

当期純利益3億円以上を計上したグループ各社は利益の1%を児童社会福祉法人へ寄付を行う。

2004年7月 寄付活動本格化

9政令指定都市、39都道府県から賛同を得て、各自自治体所管の児童養護施設・乳児院等へ寄付金謹呈。

2004年12月 SBI児童福祉有限責任中間法人設立

ストックオプションなどの寄贈を受け入れ、証券市場を活用して幅広く寄付活動を展開する日本初の試み。

2005年10月 財団法人SBI子ども希望財団設立

広く社会全体からの賛同者を募りながら、児童の自立を支援し、産業界に児童福祉の啓発を行うことを通じて、児童福祉の充実及び向上に寄与することを目的に設立。

2008年4月 SBI大学院大学開校

文部科学省より認可取得。日本及び世界の経済・社会に活力をもたらす「有為な人材」を育成するべく、互いに学び合い鍛え合う場として開校。

2010年3月 財団法人SBI子ども希望財団の公益財団法人化

直接的な社会貢献

公益財団法人 SBI子ども希望財団について

SBI子ども希望財団は、SBIグループが培った知恵とネットワークを活用し、虐待された児童たちへの自立支援や児童福祉の充実に取り組んでいます。2010年には内閣総理大臣から公益財団法人として認定され、2011年からは特定公益増進法人として税制面で

の優遇を享受しています。その活動は、被虐待児童入所施設的环境向上のための寄付や、児童養護施設の職員に向けた実践研修の提供、一般市民向け啓発活動など多岐に渡っています。寄付実施金額は2014年3月期までの累計で9億3千万円となりました。また、当財団は児童虐待防止の「オレンジリボンキャンペーン」を後援しており、毎年11月の虐待防止強化月間にはSBIグループ役職員一同、啓発活動に取り組んでいます。



最先端の医療サービスを提供する医療施設の運営

SBIウェルネスバンクでは、医療法人社団T.O.P.ドクターズ東京国際クリニックの設立、運営を支援しています。2014年2月に東京丸の内にグランドオープンした同院では、プレミアムな人間ドックや、最先端の医療技術を含む幅広い選択肢から最適な医療の提供を行っています。

同院との連携により、特に企業の要ともなる多忙なビジネスエグゼクティブのニーズを考慮し、「予防」+「治療」+「エイジマネジメント」の3領域からトータルなパッケージを提案することで、人々のより積極的な健康管理に貢献しています。



本業を通じた社会貢献

「SRIインデックス」の算出・公表

SRI(社会的責任投資)とは、従来型の財務分析による投資基準に加え、社会・倫理面及び環境面から企業を評価・選別し、安定的な収益を目指す投資手法です。モーニングスターではSRIインデックス(モーニングスター社会的責任投資株価指数)の算出・公表を2003年より行っており、SRIの意識向上と社会性の高い企業への投資環境の構築に寄与しています。